

人災、天災を記念するメモリアル建築に関する研究 概要、設計者の意図からみる差異

Studies on the Memorial Building to commemorate man-made disasters, natural disasters

from summaries and intentions of the designers

○村田 恭輔¹, 山中 新太郎²

*Kyosuke murata¹, Shintaro Ymanaka²

第一章 序論

1-1 研究背景及び目的

控えめなデザインが多かった人災、天災を記念するメモリアル建築が近年変化している。記憶をどのようなデザインで伝えられているかについて解明する。



fig 1 ユダヤ博物館

1-2 研究対象と研究方法

本研究では、国内外の、天災、人災を記念する建築を対象とする。国土交通省都市局の〈東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務 報告書〉、『新建築 (1987.1~2014.8)』、『a+u (1900.1~2014.8)』に記載している建築の中で上記の対象に当てはまる建築を研究対象とし、概要と設計者の言葉からデザインについて検証する。

(1) 既往研究と本研究の位置付け

国土交通省都市局が発表した〈東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務 報告書〉では、デザインについては研究されていない。

tab 1 研究対象一覧と概要

名称	設計者	所在地	対象	年代
A 横浜公園	横濱	東京都港区	関東大震災、太平洋戦争	横濱
B 神戸港震災メモリアルパーク	—	兵庫県神戸市	阪神淡路大震災	1997
C 北海道大震災記念館	—	兵庫県淡路市	阪神淡路大震災	1999
D 人と防災未来センター	昭和設計	兵庫県神戸市	阪神淡路大震災	2002
E 山口さくら館	—	新潟県長岡市	新潟県中越大地震	2011
F 多文化国際交流センター	—	新潟県小千谷市	新潟県中越大地震	2011
G 震災復興センター	—	新潟県長岡市	新潟県中越大地震	2011
H 震災復興センター	株式会社 アリスエフ	北海道長岡市	北海道東部大震災	2001
I 伊勢湾台風記念館	—	岐阜市	伊勢湾台風	2001
J 大野木埠頭防災センター	—	長野県長野市	震災復興大震災	2002
K 深江埠頭文化財・震災復興センター	—	長野県長野市	震災復興大震災	2006
L 大震災復興センター	久米設計	長野県長野市	震災復興大震災	2006
M 九二一地震記念館	—	台湾台中市	台湾 921 大地震	2011
N 千島湖震災記念館	山口直樹	東京都千代田区	太平洋戦争	1959
O 平和記念館	丹下健三	広島県広島市	太平洋戦争広島原爆投下	横濱
P 平和記念館	—	長崎県長崎市	太平洋戦争長崎原爆投下	横濱
横浜平和研究センター	横濱	神奈川県横浜市	太平洋戦争	横濱
Q 第一次大戦歴史博物館	アンリ・リニエ	フランス、ペローネ	第一次世界大戦	1992
R ベルリン ホロコースト記念館	アイゼンマン	ドイツ、ベルリン	ホロコースト	2005
T ベルリン ユダヤ博物館	ダニエル・リブスキンド	ドイツ、ベルリン	ホロコースト	2001
U デンマーク ユダヤ博物館	ダニエル・リブスキンド	デンマーク、コペンハーゲン	ホロコースト	2004
V アリカ合衆国ホロコースト博物館	ジョン・ボートマン	アメリカ、ワシントンDC	ホロコースト	1993
W 帝国戦争博物館北館	ダニエル・リブスキンド	イギリス、マンチェスター	帝国戦争	2001
X ユネスコ世界遺産新国立博物館	ラウス・エンカーン・アーキテクツ	オランダ、ヴェネツィア	ホロコースト	2002

泰永麻希氏らの〈現代日本の建築家による記念館建築の設計根拠と実現手法〉では、建築家が設計した建築、天災、人災に限らず調査・研究しているため、本研究とは異なっている。

第二章 概要からみるメモリアル建築

一つの敷地内にひとつの出来事を、伝承、追悼、記念の要素がすべて含まれている敷地集中型と別途の敷地に複数のメモリアル建築を設け、一つの出来事を複数の建築で祈念する分散型がある。また、都市部ほど敷地集中型で、都市部から離れるほど分散型である。よって、都市部では観光の拠点として敷地集中型、都市部以外では、町を歩かせる観光地では分散型である。

海外はひとつの建築でひとつの出来事を、伝承、追悼、記念している完結型であると言える。

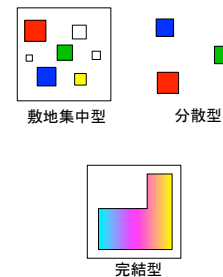


fig 2 メモリアル建築の配置傾向

第三章 設計者コメントからみるメモリアル建築

(tab1) で挙げた研究対象の中で図面と設計者のコメントが複数集める事ができた日本と海外のメモリアル建築の資料の中で特徴的な以下の6作品を分析対象とする。(tab2) 設計者のコメントと建築の図面、形態を調べていくとメモリアル建築は、設計者が外部のコメントや封後など外的な要因からのマクロな視点でデザインを決定している傾向が強いものと、外部よりも来館者に出来事をどう感じさせるかという感覚的な要因からのミクロな設計によってデザインされている傾向が強いものがある。(fig3)

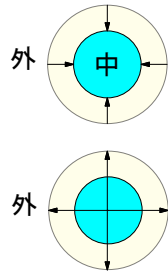


fig3 日本と海外のメモリアル建築のデザイン思考

第四章 結論

4-1 まとめ

第二章と第三章には、相互関係があり、日本は先にモニュメント性が高い慰霊碑や記念塔などのモニュメント性が高いものが設置される例が多い。建築ができ、デザインが強いモニュメントに合わせる形になる。

完結型は、建築とモニュメント、追悼の場などが同時に設計されるため、外部に合わせる必要性が低いいため、内部からデザインされている。

このことから、メモリアル建築には、サイズごとのメリット、デメリットがあると言える。

敷地集中型または分散型のメリットとしては、人々を歩かせることで地域の復興、活性化に繋がる。デメリットとしては、外部を強調させる、または外部に馴染ませるデザインになり内部空間に特徴が表しにくい

完結型のメリットは、外部の要因が少ないため、内部に特徴があるデザインが可能。デメリットは、人々が建物と建物や、都市を回ることがないため、復興や活性化には繋がりにくい。



fig4 外部によってデザインされる例 (広島原爆資料館)

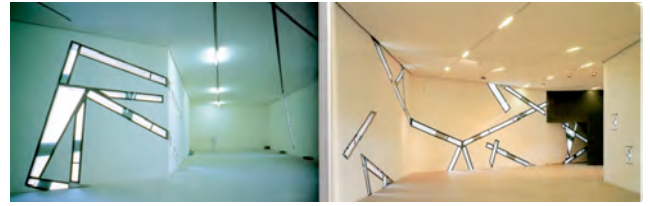


fig5 内部からデザインされた例 (ユダヤ博物館)

4-2 今後の展望

今後の展望としては、多くの図面や設計者のコメントを集めて研究し、また本論で調査した内容を実際に空間体験し、調査していく必要があると考える。そうすることで作者の意図してない部分で人々が負の記憶を体感できる空間が把握でき、空間での新しい記憶の表現手法が発見できるのではないだろうか。また、アンケート調査をする事で設計者の意図が実際に表れているかが分かり、より深い考察になると考える。

[参考文献]

- [1] 笠原一人・寺田匡宏=編『記憶表現論』昭和堂 (2009//10) p251、p252 03~6
- [2]国土交通省都市局 「東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務 報告書」平成24年3月
- [3]芦原義信『街並の美学』岩波書店 (2001/4/16)
- [4]日本建築学会大会学術講演梗概集 「現代日本の建築家による記念館建築の設計根拠と実現手法」2010年9月
- [8]丹下健三+藤森照信『丹下健三』新建築社(2002/9/10) pp130-169
- [9]丹下健三『広島市平和記念都市に関連して』(1949) 新建築 1949年10月号
- [10] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 93 : 09 p96~121 JDNレポート
- [11] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 1998 : 11 p102~121
- [12] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 2006 : 09 p88~127
- [13] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 1993 : 11 p88~127
- [14] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社2002 : 10 p14~23
- [15] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 2003 : 03 p44~49
- [16] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 2004 : 10 p26~33
- [17] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 2007 : 12 p40~45
- [18] (株) エー・アンド・ユー『a+u』新建築社 1993 : 11 p88~127

tab2 設計の留意点

	名称	留意点
a	平和記念公園	「公園の配置計画」と「スケール(ピロティ)」
b	長崎原爆資料館	「建築の背景化」
c	沖縄平和記念資料館	「建物の個性を消す」と「既存の建物や要素への配慮」
d	ペルシ・ユダヤ博物館	「建築の形体」と「建築を通して来館者の感覚に訴える」
e	アメリカ合衆国ホロコースト博物館	「建築を通して来館者の感覚に訴える」